

金縷の衣
(杜秋娘)

君に 勸む 惜しむ 莫かれ 金縷の衣

君に 勸む 須らく 惜しむべし 少年の時

花 開いて 折るに 堪えなば

直ちに 須らく 折るべし

花 無きを 待つて 空しく 枝を 折る 莫かれ

勸君莫借金縷衣 勸君須惜少年時
花開堪折直須折 莫待無花空折枝

解説 若く美しい盛りに愛してもらいたい、という愛のうた。

語釈 ※金縷衣||黄金の糸で織った高価な衣服。

※少年時||年の若い時。※花開堪折云々||花が咲いて折りとれるようになったら、すぐに折りとれ。

※莫待無花空折枝||盛りを過ぎてからではだめですよ、の意。

通釈 あなたにおすすめします。どうぞ金糸で織った衣服など愛惜なさらないで。どうぞわたくしの若く美しい時を惜しんでくださいませ。人生の花開き、手折りごろになったら、すぐに手折ってくださいませ。人生の花時を逸してから、むだに枝を折ろうなどとなさいますな。